

V 日高振興局

1. うめ研究所と共同でウメ潮風害樹の施肥方法について現地試験を実施

今年の8月下旬～9月にかけて、立て続けに台風が来襲し全国で甚大な被害が発生した。当県の農林水産業被害は89億円以上となり、中でも9月4日の台風21号による被害は64億円と近年では紀伊半島大水害に次ぐ大きな被害を受けた。

梅においては、みなべ町・印南町の沿岸部の園地を中心に、潮風害により葉の褐変や落葉が翌日からみられた。その後、徒長枝や結果枝の先端が枯れ込む状態となり、その状況を把握するため、日高果樹技術者協議会(会長：行森啓)が9月27日に実態調査を行った。この結果、落葉は海岸から4～5kmまでの広範囲にみられ、結果枝の枯れ込みは沿岸部を中心に一部の園地でみられた。

今回、被害を受けた園地において、うめ研究所と共同で樹体被害を回復させる基肥施肥管理法について現地試験を実施した。

10月3日、みなべ町山内において、施肥量や施肥方法を変えた試験区を設定し、施肥処理及び液肥散布処理を行った。今後、せん定処理を実施し、翌年の生育状況を調査するとともに、潮風害の被害程度別の生育調査も実施する予定である。

また、農業水産振興課では、現地試験の実施・調査に協力するとともに、JA・市町とともに日高果樹技術者協議会の活動を通じて、翌年の着蕾数等への影響について引き続き調査する。



現地試験園の施肥処理



液肥散布処理

2. 由良町農業士会とゆらっこ農業塾合同で「ゆら早生」を贈呈

10月16日、由良町農業士会(会長：杉谷哲哉)、ゆらっこ農業塾(会長：岡正樹)が町内小中学校4校と由良こども園の子供たちに町の特産品である「ゆら早生」を贈呈した。この活動は、町内の子どもたちに食を通じて「ゆら早生」の特性と地産地消の素晴らしさを学んでもらうことを目的として毎年行われており、これまで農業士会と農業塾が別々にゆら早

生を配布していたが、今回初めて合同で実施した。

当日は、各会員4名が2班に分かれ、それぞれの学校を訪問した。

衣奈小学校では、全校集会で贈呈式を実施し、農業士会の里地芳卓副会長と農業塾の柴田淳二副会長からそれぞれ代表の児童にゆら早生を手渡した。

児童代表からは、「台風の影響があったにもかかわらず、美味しいみかんをくださり、ありがとうございます。」との御礼の言葉が贈られた。



衣奈小学校で贈呈



由良中学校で贈呈

3. みなべ梅郷クラブが梅の枝“ズバイ”の大量出荷に取組中！！

みなべ梅郷クラブ(会長：山本秀平、会員：13名)は、今年度のプロジェクト活動として、正月用の花材として利用される梅の枝“ズバイ”の出荷に取り組んでいる。せん定後にこれまで捨てられていた梅の枝を活用して、少しでも収益拡大につなげられないか、と検討している。

10月18日、みなべ町うめ21研究センターにおいて、回収した梅の枝を出荷日まで保管しておく水槽を自作した。出荷目標の1万本を入れるコンテナの大きさに合わせて作製し、毎日水を交換するための工夫も施した。

今後、クラブ員の園地において“ズバイ”の回収効率を調査するとともに出荷に向けた保存方法を検討し、11月下旬から12月上旬の出荷実績と収益性を調査する予定である。来年1月の日高地域青年農業者会議の発表に向け、年内を目処に発表内容を取りまとめる。



プロジェクト活動



“ズバイ”

4. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が「日高の味を楽しむ会」を開催

10月25日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子）が、日高川交流センターで日高地方の豊かな食材と地域資源を活用した料理の紹介をするとともに、各団体の会員相互の交流を図ることを目的に「日高の味を楽しむ会」を開催し、会員・関係者等約50名が参加した。

この会は、昨年に引き続き、紀州日高漁協女性部の協力を得て、また今回初めて民泊団体（いなみかえるの宿、ゆめ倶楽部 21）を招き、実施した。

日高地方の食材とジビエを使い、学校給食で活用してもらえるように子供たちが好きなカレー風味の料理をはじめ、試作検討を重ねた創作料理、簡単スピード料理、スイーツなど34品が出品された。

漁協や民泊団体など参加者からは、「子供の頃から食べ慣れてきた素材を使っていても美味しい」、「品数が多く、お腹いっぱいでも全品試食することができなかった」、「彩り鮮やかな料理が並んでいて、農家レストランでもできそう」、「民泊に来られた方にこれらの料理を教えてあげたい」などの感想が聞かれた。

また、会員からは、「どの料理も美味しく家で作ってみたい」、「民泊団体の方々と交流できて良かった」などの声があり、実りある会となった。



多くの料理が並ぶ



料理の説明をする会員